

(様式2)

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

(愛媛県立宇和島東高等学校 全日制・定時制)
学校番号 (40)

評 価 実 施 日		令和 8 年 2 月 17日 (火)	
委 員	氏 名	所 属 等	備 考
	土居 賢治	学校評議員 伊予銀行宇和島支店長	
	廣川 豊仁	学校評議員 愛媛新聞社南予支社長	
	松浦 裕	学校評議員 宇和島市立中央公民館館長代理	
	芳谷 圭一	PTA会長、教育振興会長	
	梶谷 宗範	宇和島市立城北中学校長	
	田中 繁幸	ジブラルタ生命保険株式会社 営業次長	
	高田 哲也	株式会社高田商店 代表取締役	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
1 今年度の最終評価について (1) 心身健康で豊かな心 ア 身だしなみ指導について、自己表現の場でもあるので、生徒の意見も取り入れつつ進めていくと良いのではないかな。 イ 人権意識の向上に関連して、評価項目が「人権だより」の感想文の回収率ということに目標と評価が合致していないように感じられる。回収率の数値が振るわなかったからといって、人権意識の向上が見られていないというわけでもないだろう。また対策も「呼びかけ」に終始せず、達成できなかった原因の分析を行い、改善した方が良いのではないかな。 ウ 「命を守ること」や「礼節」が大切であると考えている。抜き打ちの防災訓練を行う際、どこまで情報が周知されているか。教職員の緊張感を保つことも重要だ。自分が勤務している学校でも挨拶ができない生徒が多い。自ら挨拶ができる生徒を育てるために、挨拶指導を取り入れて欲しい。 エ 脳科学的な学習も取り入れて生徒たちに、すぐに離職しない「強い心」を育てて欲しい。 生徒たちが校内に「心身の悩みを相談できる」人がいると感じていることはありがたい。 オ 図書館、自習室の利用率や「ホリバタ」の利用率が高く なっていて、昔と比べて学習する環境ははるかに良くなっていると感じる。このまま続けて欲しい。 (2) 探究心・実践力の育成 ア 保護者アンケートにおける「わかる授業」の項目の評価が厳しい結果となっているが、どのような対策を考えているか。 イ 学習習慣の確立の自己評価が「D」と厳しいものになっているが何か改善できることはあるか。	・ 従前よりも、指導に幅を持たせて身だしなみ指導は行っている。制服はチームとしてのユニフォームでもあるため、指導の回数を減らすことで生徒の自主性とのバランスを保ちながら行っていきたい。 ・ 毎月発行している人権だよりの感想文は生徒と保護者の両方から回収している。年度当初は熱心に感想を書いてくれるが、回を追うごとに回収率が下がる傾向がある。確かに回収率のみでの評価は主眼でないため、人権意識の向上を感じられる評価項目を模索し、改善したい。 ・ 抜き打ちの訓練は授業の関係から生徒のみ知らない状態で行っている。避難の様子を分析するために防災委員にも事前に周知して端末を利用して録画させている。情報を伏せる範囲については検討したい。挨拶指導は行っているため、今後も続けたい。 ・ 自殺予防や特別支援についての職員研修が毎年あるため、メンタルトレーニング的な内容についても検討したい。 ・ 「ホリバタ」(宇和島市中央公民館)の存在は大変ありがたい。節度を守って利用するように指導したい。 ・ 県からの研究指定を受け、10年間に渡って研究を行っているところである。校外の模擬試験の成績などを見ると、入学時からの伸び率は県下でも有数の成績であるが、それが保護者のみなさまに伝わっていないところが課題である。公開授業を増やすなど、学校の取組を伝える必要がある。 ・ 学習習慣の確立については、生徒の家庭学習時間調査の結果をもとにしているが、学校行事が入るタイミングが年度によって異なっており、一定の評価がしづらい面はある。しかしその点を除いても自己学習習慣の確立が難しい生徒が増えている。自己調整型学習を指導したい。

ウ 就職に関して、採用内定の内訳を可能な限りで教えていただきたい。 (3) 魅力ある学校 ア 修学支援金制度の充実により私学を志望する生徒が増えるのではないかな。 イ みきゃん部以外の部活動でも中学校との連携をお願いしたい。中学生が入りたい部活動がなくなると生徒の流出につながるのでは部活動を存続させてほしい。	・今年の全日制の生徒は、県内志望が多かった。国家公務員を含め、多くの内定を頂いている。高校卒業後に就職先を探す生徒が一名いるが、できる限りのサポートを行いたい。 ・県から指定を受け「みきゃん部」として活動している部活動が2つ（陸上競技部・吹奏楽部）ある。今年度は3回陸上競技部で中学生を対象にした陸上教室を開いたところ、本校に興味を持つ中学生が増えた。これからも続けていきたい。 また、商業科でも資格取得に向けての指導充実を図りつつも、地域の方々と連携した探究活動を行っている。 ・各部活動が地域の行事や祭りに協力して参加したり、地域貢献活動を行っている。大変な面もあるが続けていきたい。
2 定時制について ア 自己評価において「C」「D」の評価が見られるが、そもそもの「A」評価基準が高すぎるようにも感じるがいかがかな。 イ 今後も定時制は生徒たちにとっての学びのセーフティネットとして機能し続けて欲しい。人間形成の過渡期にある高校年代の子供たちに対して、全日制の生徒であっても悩みを抱えている生徒に、定時制の存在を紹介してほしい。	・評価基準に関しては、これまで使われてきたものを参考に目標設定している。教員数が少ないため、全体の評価数値が個人一人一人の評価で大きく左右される。改善できる点は改善していきたい。 ・実際に全日制で続けられなくなって定時制に来た生徒も増えている。そういった生徒たちが安心して学べる場であり続けたい。
3 学校運営について ア 将来地元に戻ってくるような人材育成を期待したい。 イ 正月の巫女のアルバイトに許可が下りなかった生徒がいると聞いたが、柔軟に対応してもらえないかな。	・卒業生（大学生）が主体となって「ブーメランカレッジ」を作っている。他県に進学した大学生が定期的に宇和島に帰ってきて高校生と交流する取組をおこなっており、学校としてもできる限りサポートしたい。 ・保護者の許可、手続き、本人の学業成績に問題なければ、巫女に関しては許可を出している。